平成29年度第２回まちの再生・活性化委員会　会議録	
日時	平成29年11月25日（土）9：30～11：00
開催場所	上郷地区センター
出席者	＜委員＞ 吉田(敏)委員長、大原委員、芦川委員、古川委員、岡野委員、難波委員、竹内委員代理、内田(正)委員、宮崎委員、亀梨委員、森委員、福島委員、小林委員、吉井委員、吉田(勲)委員、見上委員（16名） ＜事務局＞ 栄区区政推進課（４名） 政策局政策課（２名） 横浜プランナーズネットワーク（３名） ＜傍聴者＞ ２名
欠席者	豊田委員、別府委員、森長委員、辻委員、内田(克)委員、川崎委員、井川委員、小池委員、三宅委員、山口委員、高橋(理)委員、齋藤委員、高橋(勝)委員、森田委員
説明・報告事項	＜３分科会の中間報告＞ ・資料１に基づき事務局から概要説明。 ・資料２、３、４、５に基づき各分科会リーダーから説明。
協議事項	＜中間報告を受けて＞ 【質問・意見】 ●資料２・旧庄戸中学校活用案について。 ①地域による管理運営の考え方が出されているが、実践していく上での調整はどこが担うのか、そのような話題は出ているのか？ ⇒バックアップは必要なので、区役所や横浜プランナーズネットワークなどの力を借りることを想定している。 ⇒施設管理者がどこになるかによって違ってくることなので、今後はっきりさせながらまとめていければ良いのではないか。 ⇒中学校跡施設の処分方法は未定である。今は地域要望をまとめたところですので、経団連企業との意見交換などを踏まえて、市としての方向を今後詰めていく予定である。その結果は適宜フィードバックしたい。（事務局） ⇒早く明らかにして欲しい。 ⇒活動ベースの組織と建物管理運営事業の組織を一緒にするのか、区分するのか、今後の課題だと思う。 経団連企業が跡地利用のテナントだけではなく、仕事を提供する立場で関わってくれると良い。ここでしかできない組み立てが必要と思う。 ②経団連窓口をはじめ、来年度以降はどこが本委員会を担当するのか。 ⇒引き続き区や政策局が担当します。（事務局）

	●野七里では小学校が統合されて、子供たちのつながりは学校単位になり、一つの町を超えてコミュニケーションが図られている。連合で共有しあうことで、子供会活動も活性化するのではないか。 ⇒今後、大人の視点のみにならず、子供の視点も踏まえて検討していきたい。 ●経団連傘下の企業に対しては、地域と win-win の関係を作ることをアピールするために、後利用活用案だけではなく他分科会の情報も発信していくことが重要だと思う。 ⇒経団連は、地域の声を聴くことを前提としている。 ●バス事業者等へも、地域交通分科会でまとめられた要望を伝えるだけではなく、バス利用者の需要があることや、地域の魅力を PR しながら働きかけをした方がいいと思う。 ●庄戸町内会館の話もあるが、それとは別に、町内会の活動の場として利用できるよう、後利用について早く結論が出ることを願っている。 ⇒現在も町内会はコミュニティハウスの利用団体の一つである。 後活用案ではコミュニティハウスの拡大版を考えているので、利用者はこれまでと同様である。 ●柱３のコミュニティ活動の管理運営については、自分たち地域を優先して検討してもらいたい。地域はあらゆる活動をしている。そのリーダーに理解してもらって連合体として NPO などを創っていくのは可能と思う。 ＜まとめ＞ ・各分科会で、引き続き今日出された課題、特に組織運営・管理運営する主体をどうするか、「地域が主体となって管理運営する」を念頭において検討してほしい。 ・通勤、距離に制約されない就労環境のあり方を考えていくことが重要で、地域内で就労の場が出てくれば、地域の人がいろいろな場面で参加できる。 ・企業には、単なる消費地ではなく雇用の場づくりにもなるような新しい形の地域づくりとして「働きながら生活する場づくり」に貢献してもらえるような関わり方を期待したい。
資料	・次第 ・【資料１】分科会の活動報告 6 月～10 月 ・【資料２】旧庄戸中学校後利用活用案のとりまとめ ・【資料３】都市計画道路　上郷公田線の事業概要 ・【資料４】上郷公田線近辺にお住まいの皆様の移動状況に関するアンケート調査 ・参考資料　各分科会会議録 ・参考資料　栄区バスマップ